

好きです！奄美農業

編集・発行 大島支庁農林水産部農政普及課

経営普及係・技術普及係 奄美市名瀬永田町17-3 (0997)57-7274

瀬戸内町駐在 瀬戸内町古仁屋船津36 (0997)72-0184

喜界町駐在 喜界町赤連2901-14 (0997)65-3019

<http://www.pref.kagoshima.jp/aa02/chiiki/oshima/sangyo/nougyou/index.html>

就農を激励！ 新規就農者励ましの会を開催

奄美大島・喜界島では、近年7～10名の方が新規就農されています。就農者は後継者に加え、県内外からのIターン・Uターン者も多く、そのほとんどが、奄美市、瀬戸内町、喜界町の就農研修施設での1～2年間の研修を経て就農されます。経営品目は割合の高い順に、果樹、野菜、さとうきび、肉用牛となっています。

農政普及課では、新規就農者の定着を図るため、農業基礎講座等の研修会の開催や指導農業士会、各市町村などと連携した個別巡回指導・支援を行っています。

6月17日、大島地区農業改良普及事業協議会の主催による新規就農者励ましの会が、アマホームPLAZAで開催され、総勢60名で新規就農者の門出を祝いました。

今年度の対象者は、令和6年7月～7年6月に就農された7名（奄美市2名、瀬戸内町3名、喜界町2名）で、パッションフルーツやたんかん等の果樹、さとうきび、ごまの経営に取り組んでいます。

新規就農者全員が参加し、「研修で学んだパッションフルーツ栽培で、地域農業に貢献していきたい」「家族の協力を得ながら、果樹と野菜の経営を展開していきたい」「叔父のさとうきび技術を習得しながら、経営を発展させたい」などと営農の目標や抱負を熱く語られました。

協議会会長の大和村長からは「果樹等は大島地域で高収益の作物。これからは付加価値をつけた農業が大切、活躍を期待する」、大島支庁長からは「楽しみながら大島の農業を牽引していく経営者になって。関係機関一体となって支援する」、地区指導農業士会会長からは「農業経営はそう簡単ではない。悩みがあるときは我々を頼って。何でも応援する」と激励されたほか、各関係団体からも励ましの言葉が贈られました。

新規就農者の皆様のこれからの活躍を期待しております。



新規就農者（前列7名）との記念撮影



大和村長からの記念品贈呈



抱負を語る新規就農者



祝福の言葉を贈る大島支庁長



激励する指導農業士会会長

奄美大島・喜界島農業の動き

奄美大島・喜界島の農業の出来事を、毎月県ホームページ上で紹介しています。
右のQRコードから閲覧できます。
詳細は、大島支庁農政普及課までお問い合わせください。



令和7年1月掲載

- 各地で「奄美たんかん出荷協議会」開催（1月14日～16日）
- 新規就農者セミナーを開催、
技術や経営を学び、交流を深める（1月20日）
- 奄美地域畜産若手生産者研修会を開催（1月22日）

令和7年2月掲載

- 奄美大島のたんかん収穫開始（2月1日）
- 「鹿児島県園芸振興協議会大島支部果樹技術部会」が
受賞記念の事例発表会に出演（2月3日）
- 奄美群島たんかん品評会、昨年を上回る出品で盛大
に開催（2月6日、10日）
- 喜界町で早熟かぼちゃ研修会を開催（2月7日）
- 喜界町コーラルプロジェクトが進行中（2月19日）
- 喜界町の若手マンゴー農家へ支援拡充を図る（2月20日）

令和7年3月掲載

- 喜界町の早熟かぼちゃ現地検討会を開催（3月10日）
- 肉用牛農家の技術経営コンサルティングを実施
（3月10日～11日）
- みどりの食料システム戦略に対応した施肥体系を検討
（3月12日）
- 喜界町ゴマ生産振興協議会が振興策の検討（3月17日）

令和7年4月掲載

- 喜界町でさとうきび機械操作の安全講習会を開催
（3月21日）
- 喜界町で指導農業士認定証授与式と家族経営協定締結式
を開催（3月31日）

令和7年5月掲載

- あまみフルーツアイランド確立事業が開始（4月1日）
- マンゴーの有胚果減少と研修会を開催（5月20日）
- 喜界町コーラルプロジェクトが進行中（5月22日）

令和7年6月掲載

- 新規オペレータ確保に向け、さとうきびハーベスタ試乗会
を開催（6月8日）
- 喜界町生産牛農家に経営分析結果を共有（6月10日）
- 喜界町川嶺集落で農地集積に向けたアンケートを実施
（6月11日）
- 令和7年度新規就農者励ましの会を開催（6月17日）



新規就農者セミナー（1月掲載）



畜産若手生産者研修会（1月掲載）



奄美大島空港で品評会で入賞した「たんかん」の展示と試食によるPR（2月掲載）



あまみフルーツアイランド確立事業開始
たんかん密植仕立て検討会（5月掲載）



さとうきびハーベスタ試乗会（6月掲載）

秋冬作飼料作物で粗飼料の増産！

生産資材価格が高騰している中、肉用牛経営安定のためには粗飼料自給率向上が重要です。これからの時期に更新する畑、空いている畑があれば、秋冬作の飼料作物を作付して冬場のエサの確保を図りましょう！

イタリアンライグラス

【特性】・栄養価が高い ・再生力があり秋播種で春先まで2～3回収穫できる

【期待収量】6～9 t/10a(県栽培基準) 【播種量】3～4 kg/10a

【10aあたり施肥量(kg)】基肥：堆肥2t, N-P-K(10-20-10) 追肥：N-K(5-5)

【播種時期】11月頃（11月より早く播種する場合は、いもち病抵抗性品種を使う）

【収穫時期】穂孕み期～出穂期（ほ場全体の1～2割が出穂した頃）

混播する場合

- ・基肥はエンバクの施肥量
- ・10aあたり播種量
エンバク5～6kg
イタリアン2～3kg
- ・1回目の収穫はエンバク主体、2回目以降はイタリアンのみ収穫

エンバク

【特性】・基本1回刈り ・湿害に弱い排水の悪い畑は不向き

【期待収量】3～6 t/10a(県栽培基準) 【播種量】6～8 kg/10a

【10aあたり施肥量(kg)】基肥：堆肥2t, N-P-K(8-15-10)

【播種時期】10月下旬～11月中旬

【収穫時期】乳熟期～糊熟期



★ローズグラス更新時の活用

3年に1回をメドに更新！



★夏作品種と組み合わせた収量UP体系

夏作草種：スーダングラスなど

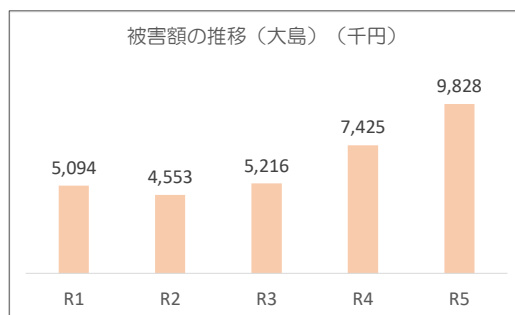


アミノクロウサギによる農作物被害防止対策

【アミノクロウサギとは】

アミノクロウサギは、奄美大島・徳之島にのみ生息する固有種で、昭和38年に国の特別天然記念物、平成16年に国内希少野生動物種に指定されました。

近年、生息域が拡大傾向にあり、タンカンやさとうきび等への農作物被害も増加し、被害防止対策が求められています。



【農作物被害防止対策をまとめたマニュアルを作成しました！】

大島支庁では、平成29年度に環境省、鹿児島大学、市町村等で構成する「アミノクロウサギ対策会議」を設立し、実効性のある農作物被害防止対策を目指して検討を進めています。

令和7年3月に、鹿児島大学が中心となり、農作物被害防止対策の方法等をまとめ「アミノクロウサギ農作物被害対策マニュアル（簡易版）」を発行しました。柵や囲いを使った対策等、事例を掲載していますのでぜひ御活用ください！



～アミノクロウサギ対策会議の様子～

↑マニュアルはこちら（県ホームページ）

新たに認定された農業士の紹介

令和6年度は、新たに指導農業士に2名、青年農業士に1名が認定されました。



【指導農業士】
◎平井孝宜さん
(奄美市 果樹)

20年近く柑橘経営キャリアを重ねる中で、奄美ならではの栽培管理への理解を深め、奄美地域でのたんかん・津之輝がもつ力を十分に引き出した経営を展開しています。

奄美大島では、柑橘類を経営に位置づける新規就農者や若手の柑橘農業者が多く、その方々の栽培管理や経営に関する個別相談に積極的に対応されるなど、産地の発展に向け精力的に活動しています。



【指導農業士】
◎高岡清信さん
(喜界町 果樹)

マンゴー、たんかんを中心とする果樹の大規模経営を行いながら、喜界町の果樹振興会長、認定・担い手協議会長など地域のリーダーとしても活躍中です。

町の主要産業である農業の後継者確保・育成を喫緊の課題ととらえ、小学生を対象とした農業体験の機会づくりや、新規・若手農業者への助言も積極的に行っています。



【青年農業士】
◎野村貴徳さん
(奄美市 畜産)

叔父が肉用牛経営を営む姿を見て、自身も牛飼いを志し、農業大学校畜産学部肉用牛科養成部門を卒業後、叔父の元での研修を経て、令和2年に就農されました。

現在、経営基盤確立に向け、各種研修会や肉用牛生産者間の交流、経営分析などに取り組み、技術習得や経営改善に努めています。

大島地区と奄美市の農業青年クラブに所属し、品目を越えた地域活動に貢献しています。

大島地域農業をリードしていく3名の御活躍を期待します！

令和7年度の普及職員紹介

農政普及課長 中

技術普及係

松比良
(果樹)

南
(花き)

野島
(野菜)

生田
(畜産)

経営普及係

花立
(経営)

上之園
(経営)

豊永
(作物)

瀬戸内町駐在

内村
(畜産)

前野
(果樹)

喜界町駐在

森
(野菜・作物)

芝
(花き・果樹)

よろしくお願いいたします！